

留学の思い出

第十四回生 小田島 巖雄

(曹洞宗龍昌院副住職)

当時、大学院修了後の私は、曹洞宗研究員兼任のまま、ロサンゼルス禅センターに研修留学僧として着任し修行をはじめた。数ヶ月もたつと自身の語学力、特にヒアリングの弱さに気がつき、願い出て日本人や日本語を使用しない所、ユタ州観世音禅センターへ移った。知らない土地での実地での研鑽になったが、日常行持、作務、休日の外出など生活力は進歩したと思う。ユタ州で特筆すべき点は、オランダはアムランド島での冬季接心に招待され参禅したことである。当地では欧米各地からの多くの参禅者が集まり、共に修行をした。このことは後の自分の人生においても良い思い出となっている。開創前夜の禅川寺へもお邪魔してアットホームな体験もさせて頂いた。そして空いた時間はライデン市にある名門ライデン大学へ移り、ホームステイをさせてもらいながら数日滞在できた。ここでは、仏教学、東洋学の蔵書も豊富で、研究論文を一本仕上げられたのは、うれしい思い出でもある。

帰米後は、禅マウンテンセンター、北米開教師の方々との交流、サンフランシスコ禅センター訪問をした。サンフランシスコでは、運営方法や修行形態の違い、他宗の方も来ており、つぶさに見聞できたことも糧になっている。

以上、簡単に自己の足跡をたどってきたが、現在ふり返ってみると、海外で修行できたことは、後の人生において大きな指標となっていることは確かである。海外での留学にしろ研修にしろ、目的は異なれども若い時の勉強や見聞は、間違いなく、各人の生涯に渡って多くの実りをもたらす、ということである。

育英会様のこれ迄の尽力に感謝すると共に、同会の益々のご発展を祈念し、筆を置くことにする。

